



「僕のほうが青やったのに！」
幼いころは喘息の発作を繰り返す体の弱い子
でしたが、気持ちは前向きで何事も一生懸命
頑張る努力家でした。

美術と音楽の大好きな青年に成長し、たくさんの絵画や工作、自作の歌を残して、1996年12月9日大学への通学途中、信号無視の大型トラックに命を奪われました。

痛みと苦しみの中で発した言葉「僕のほうが青やったのに！」が、加害者への抗議最期のメッセージとなりました。

危険さわまりない悪質で無謀運転をした加害者に対し、刑事裁判は求刑2年・禁錮1年2か月、今なら危険運転致死傷罪で裁かれる内容でも、
当時は業務上過失致死罪（過失＝ミス）として裁かれるしかなく、命の重さに比べてなんと軽い刑だったのでしょか…

夢や希望がいっぱいある若者の未来を一瞬で奪っておきながら、加害者から誠意ある謝罪はいまだ一度もありません。

愛する家族の突然の死により、日々の生活は深い悲しみと喪失感ですっかり変わってしまい、家族だけでなく友人や周りの人たちにもさまざまな影響を与えました。

そして、親が子供を見送る逆縁の辛さは、一生続くことでしょう。

泰彦へ

あの日から17年も経ちました、父と母は君の友人たちに支えられ、

感謝しながらたくさんの思い出とともに生きています。

君の生きた証を残すため、君の夢を叶えるため、
君の作った歌をCDにして、今も配り続けているよ。

